

# インド、2月の消費者物価指数は前年同月比で+4.44% 良好な経済ファンダメンタルズを示す

情報提供資料 2018年3月13日

インド中央統計局が発表した2月の消費者物価指数（CPI）上昇率は、前年同月比+4.44%と市場予想を下回りました。また、同日に発表された1月の鉱工業生産指数は、前年同月比+7.5%となり、両指数とも良好なファンダメンタルズを示す結果となりました。

## ➤ インフレ率は安定して推移

■ 2018年3月12日に発表された2月のCPI上昇率は、前月の+5.07%に対して+4.44%（前年同月比、以下同）とブルームバーグ予想中央値（+4.70%）を下回り、2017年12月の+5.21%をピークに低下傾向が続く形となりました。

■ インド準備銀行（RBI、中央銀行）が、2月7日の金融政策決定会合で政策金利を据え置き、政策スタンスを中立で維持する中、今回のCPIが2017/18年度1-3月期のインフレ率予想である+5.1%を大きく下回ったことで、目先は安心感が広がるものと考えられます。

■ 項目別で見ると、CPIの約46%を占める食料品・飲料が+3.4%と、前月の+4.6%から上昇率が低下したことが主に寄与しました。食料品は幅広い品目で上昇率の低下が見られましたが、特に、前月に+27.0%となっていた野菜が2月は+17.6%となり、全体の食料品・飲料価格の上昇率を押し下げました。インドの食卓で重要な玉ねぎの価格は、昨年秋以降大幅に上昇していましたが、年明けから反落し、3月初旬には2017年12月につけた直近のピークの1/3近い価格まで下落しています。また、原油価格の上昇に一服感が見られる中、燃料は前月の+7.7%から+6.8%となりました。

■ 一方、RBIが2018/19年度前半のCPI上昇率予想を+5.1%～+5.6%としていることや、2018/19年度予算案でモンスーン期（雨季）の農作物の最低支持価格（MSP）の引き上げ方針が示されていることもあり、引き続きインフレの動向には注意が必要です。

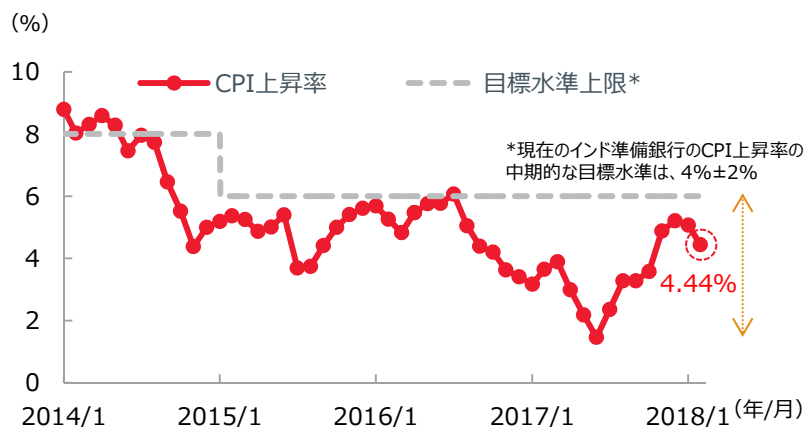
## ➤ 1月の鉱工業生産指数は、予想を上回る+7.5%

■ CPIと同日に発表された、2018年1月の鉱工業生産は、前月の+7.1%から加速して+7.5%（前年同月比、以下同）となり、ブルームバーグ予想中央値の+6.4%を上回りました。

■ 製造業PMIは昨年の物品・サービス税（GST）導入（2017年7月1日）直後に改善と悪化の境目となる50を一時割り込みましたが、その後は50を上回る水準で推移しています。

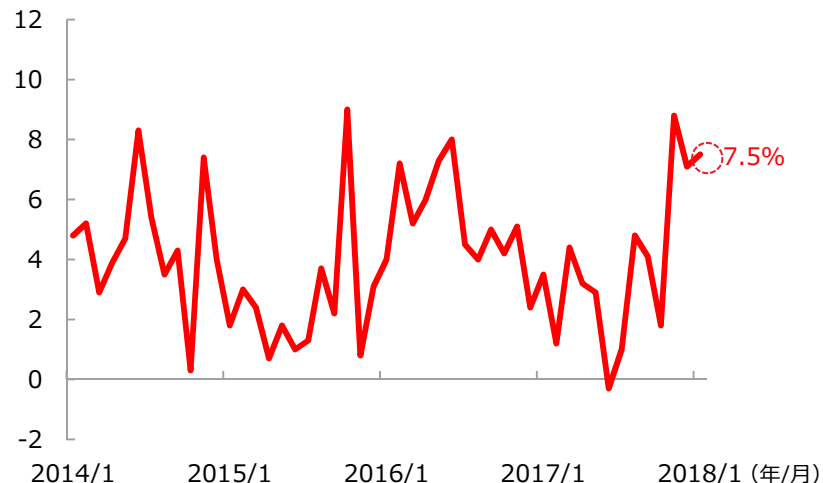
■ 製造業はGST導入直後の一時的な混乱から着実に回復傾向を辿っていると見られます。今後設備稼働率の上昇、銀行貸出の増加につながれば、企業業績のさらなる拡大が進むと期待されます。

インドの消費者物価指数（CPI）上昇率（前年同月比）の推移  
（2014年1月～2018年2月）



出所：Bloomberg L.P. のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。  
CPI上昇率は（2014年12月までは旧基準（2010年=100）、2015年1月以降は新基準（2012年=100））による統計。

インドの鉱工業生産指数（前年同期比）の伸び率の推移  
（2014年1月～2018年1月）



出所：Bloomberg L.P. のデータに基づきイーストスプリング・インベストメンツ作成。

東洋ブルデンシャル社はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社の最終親会社です。最終親会社およびそのグループ会社は主に米国で事業を展開しているブルデンシャル・ファイナンシャル社とは関係がありません。

※当資料はイーストスプリング・インベストメンツ株式会社が情報提供を目的として作成したものであり、特定の金融商品等の勧誘・販売を目的とするものではありません。また、金融商品取引法に基づく開示資料でもありません。※当資料は信頼できると判断された情報等をもとに作成していますが、必ずしも正確性、完全性を保証するものではありません。※当資料には、現在の見解および予想に基づく将来の見通しが含まれることがありますが、事前の通知なくこれらを変更したり修正したりすることがあります。また、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。※当資料で使用しているグラフ、パフォーマンス等は参考データをご提供する目的で作成したものです。数値等の内容は過去の実績や将来の予測を示したものであり、将来を保証するものではありません。